行動計量学会報

日本行動計量学会事務局
106 東京都港区南麻布４－６－７
統計数理研究所 村上研究室

理事長に再選されて

柳井晴夫

平成６年４月に第4代の理事長に選出されて以来，理事会，運営委員会等の役員，および会員の皆様に助けられながら，3年間の任期を全うすることができた。本来ならここで，新しい理事長が選出されるべきであったが，新理事会の推挙によりはからずも私が理事長に再選されることになった。本学会の規定によると理事長の再選は2期6年までということで，平成12年3月まで理事長の職に留まることになる。会員の皆様方のご協力をお願いする次第である。

ところで，本学会が取り組むべき緊急の課題として，次の4点を挙げたい。第1は，会員数の増加，第2は他学会との交流の促進，第3は会誌，会報の充実，第4は会則の点検とその補強，である。第1の点については最後に述べよう。第2の他学会の交流という点において特筆すべきイベントとして昨年（平成8年）9月に千葉の幕張メッセで行われた日本統計学会と行動計量学会の同時開催が挙げられよう。ここで，同時開催を見事に成し遂げた田栗理事のご努力に敬意を表したい。同時開催を記念して行われた一般公開シンポジウムは大変盛況であったことを企画に携わった一人として嬉しく思う。このような他学会との同時開催は，今後，できる限り機会を捉えて進めて行きたい。学会大会に限らず，シンポジウムや講習会等においても他学会との共催は可能である。

会誌の発行は最も重要な学会の活動である．平成6～8年の間に欧文誌「Behaviormetrika」は繁桝編集長,狩野編集委員等のご努力により，2回の special issue(特別号)が発行され，多数の外国からの論文を掲載した。Behaviormetrika誌の国際的知名度と評価を高めるのに非常に有効であったと思う。和文誌「行動計量学」も，岡太前編集委員長のご努力により，特集，および書評欄が充実するなど，その役割を充分果たしてきた。新編集委員会にも継続して会誌充実をお願いしたいところであるが，投稿論文あっての学会誌である。会員の皆様の積極的な投稿を呼びかけたい。また，会報に関しても岩崎理事，前田運営委員のご尽力により内容が充実した。更なる充実を期待したい。

ところで，1973年に本学会が発足してはや四半世紀が経過し，本年9月の東北大学主催による仙台大会で25回目の大会を迎えることになる。本学会がさらに発展を続けていくために，現在の会則を点検し，その問題点を探すといった作業を行うことが焦眉の急である。行動計量学会の運営がスムースにいくために必要とされる細則を補う必要がある。

行動計量学会の多くの会員は自分の所属する専門分野の研究に限定せず，幅広い学際的研究の要請される分野に少なからず関心を抱いている。その意味で，大学入試データの解析，災害問題，交通問題，最近注目されている複雑系といった諸問題に関心のある幅広い領域の研究者を会員に獲得していく必要がある。会員の皆様方に，新会員の積極的な勧誘をお願いする次第である。学会の活性化のためには特にヤングジェネレイションの参加が不可欠であることがいうまでもない。

（日本行動計量学会理事長）

日本行動計量学会第25回大会

1. 大会日時／場所

日時：平成９年９月５日(金)～７日(日)
場所：仙台市戦災復興記念館
〒980 仙台市青葉区大町 2-12-1
TEL：022-263-6931
※大会に先立ち，９月４日(木)午後１時３０分から同場所において，チュートリアルセミナー（複雑系と行動計量学［仮題］）を予定しています。

2. 大会の内容について

1) シンポジウム
・東京の失敗を繰返すな－地方中枢都市への課題－（一般に無料公開）
司会：西川善久（河北新報社）
＜Ⅰ部＞基調講演
仙台市長ほか
＜Ⅱ部＞パネルディスカッション
斉藤参郎（福岡大学）
石井真治（広島大学）
徳永幸之（東北大学）
林　一成（計量計画研究所）
・現代日本の社会構造を探る－社会学と行動計量学との対話－
司会：高坂健次（関西学院大学）
鹿又伸夫（北海道大学）
近藤博之（大阪大学）
佐藤俊樹（東京大学）
吉川　徹（静岡大学）
都築一治（流通経済大学）
小林久高（島根大学）
・「生と死」の行動計量－ＱＯＬを考える－
司会・オーガナイザー　丸山久美子（聖学院大学）
清水哲郎（東北大学）
吉田勝也（自治医科大学）
栗原　稔（昭和大学）
高木廣文（統計数理研究所）
指定討論者：
村上　隆（名古屋大学）
松原　望（東京大学）

2) 特別セッション（予定）
・センター試験の得点調整
・選択行動モデルの新しい理論展開－交通需要分析における最近の試み
・地方中枢都市交通問題への行動計量からのアプローチ
・介護カルテ
・選挙／投票行動
・子どもの生活環境と適応
・農業%環境%倫理と行動計量
・社会的公正
・自由回答の分析
・地域間関係
・ネットワーク
・社会調査法

3) 一般セッション

６月１０日登録締切です。

※シンポジウム／特別セッションのテーマ，内容は，変更されることがありますので，最新の情報は，大会ホームページ等を参照ください。

3. 大会ホームページについて

第２５回大会では，大会関連の情報を満載したホームページを開設しております。この中には，シンポジウム内容等に関する議論の場の他に，都市イメージの地域性を調べるために日本各地にお住いの方々を対象とした意識調査を実施しています。インターネット上での調査がどこまで信頼できるかは疑問が残りますが，大会当日の資料の一部にしたいので，会員の皆様には，大会ホームページのことをお知り合いの方にでも伝えていただきたいと思います。宜しくお願い申しあげます。

アドレスは下記の通りです。

http://www.sal.tohoku.ac.jp/bsj97/

なお，第２５回大会に関するお問い合せは，下記までお願いいたします。

〒980-77 仙台市青葉区川内無番地
東北大学国際文化研究科等事務部気付
農学部地域計画論研究室
木谷　忍
Tel 022-217-7781
Fax 022-263-9277
E-mail skitani@mail.cc.tohoku.ac.jp

平成9年度 第1回 理事会議事録

日時: 平成9年4月1日 PM6:00～8:00
場所: 大学入試センター
出席者: 飽戸 弘, 市川雅教, 岩崎 学, 江川 清, 狩野 裕, 久保武士, 繁桝算男, 高木廣文, 前川眞一, 村上征勝, 柳井晴夫, 山岡和枝, 吉野諒三
議題:

1. 理事の変更について
海野理事の辞退により, 新理事として東北大学の原 純輔会員を選出した。

2. 理事会の任務分担について
以下のように今期の理事会(平成9年4月～12年3月)の任務分担が決まった。

・理事長	柳井晴夫
・編集委員長	池田 央
・和文誌編集委員長	久保武士
・欧文誌編集委員長	繁桝算男
・運営委員長	岡太彬訓
・会則検討委員会委員長	田栗正章
・会則検討委員会委員	江川 清
〃	岡太彬訓
〃	駒沢 勉
〃	岩崎 学
〃	高木廣文
〃	吉村 功
〃	村上征勝
〃	林 知己夫
・会計・庶務担当(事務局)	村上征勝
〃	吉野諒三
・会報担当	山岡和枝
・名誉会員担当	岩坪秀一
・地方・海外担当	
海外	狩野 裕
近畿	木下冨雄
中国, 四国, 九州	垂水共之
北海道, 東北	原 純輔
東海, 北陸	村上 隆
・渉外担当	柳原良造
〃	市川雅教
・大会担当	村上 隆
〃	飽戸 弘

3. 平成9年度理事会日程案について
以下の日程案が了承された。

第1回	平成 9年 4月 1日(火)
第2回	9年 5月12日(月)
第3回	9年 7月14日(月)
第4回	9年 9月 5日(金)
	(行動計量学会初日)
第5回	9年11月17日(月)
第6回	10年 2月16日(月)

新委員会発足

<運営委員会>

学会活動の活性化に向けて

運営委員長 岡太 彬訓

この4月から運営委員長を務めることになりました. 運営委員会の仕事は, 定型的な面が少なく, 多様な面をもっていると思います. シンポジウム, 講習会, チュートリアルセミナーなど, 運営委員会は学会のさまざまな活動に関係しています. これらは, 学会の重要な活動です. これらの活動は, 学会としての新しい領域への挑戦, さまざまな領域の人達との交流の機会の提供, 学会の活動の広報などを通じて, 学会の活動の裾野を拡げたり深めることにより, 学会を活性化するために重要な役割を担っていると思います. 会員の皆様の積極的なご支援とご助言を心からお願いする次第です. また, 9月5日から始まる第25回大会では, その前日(9月4日)の午後に大会と同じ会場(仙台市戦災復興記念館)でチュートリアルセミナー(テーマは「複雑系と行動計量学」の予定)の開催を計画しています. 詳細は, 改めて皆様にお知らせすることになると思います. 奮ってご参加下さるようお願いします.

<会則検討委員会>

会則検討委員長をお引き受けして

会則検討委員長 田栗 正章

このたび松原委員長に代わって, 会則検討委員長を担当することになりました。現在のところ, どのような事項について検討すべきであるのかよく分かっていませんが, 例えば役員の任期の問題, 名誉会員の問題などがあるのではないかと考えています。日本行動計量学会もかなり長い歴史をもつようになり, より一層の充実が期待されています。学会の諸活動が活発にかつ円滑に行われるべく, 会則の面でも整備が

必要と思われます。会員の皆様をはじめ，前委員会や理事会，各種委員会などのご意見を基に，本学会のますますの発展のために努力するつもりです。よろしくお願いいたします。

＜和文誌編集委員会＞

和文誌編集委員長に就任して

和文誌編集委員長 久保 武士

このたび，岡田委員長の後任として行動計量学会和文誌編集委員長の大役を仰せつかりました。浅学非才の身でありますが皆様のご指導ご支援を賜り，岡田教授に教わりながら最善を尽くしたいと思っていますので，どうかご協力下さいますようお願い申し上げます。

医学の世界では業績評価を，論文数もさることながら，論文掲載誌のランクに基づいてなされることがよくあります。そのランク付けに「impact factor」（そのjournalに掲載された論文が他の論文中に引用される平均回数）が使われ，この数値が高いほどその雑誌の価値が高く，したがってそれに掲載された論文の評価も高いということになっています。これはあくまで一つの評価方法に過ぎませんが，できることなら行動計量学会誌もいわゆる「impact factor」の高いjournalになってほしいものです。そのためには，一つは行動計量学会の会員数と投稿者が増えなければなりません。それは容易いことではありませんが，何か工夫してみたいと思っています。よいアイデアがあれば是非お聴かせ下さい。

＜欧文誌編集委員会＞

欧文誌編集委員会２期目

欧文誌編集委員長 繁桝 算男

２度あることは３度あると言い，あるいは，３度目の正直と言う。２回目から３回目には転機があるのかも知れない。２度目はどうであろうか。私は，欧文誌編集委員長と言う大事な役目を２期続けることになった。何事においても，初めてのこと，１度目のインパクトは言うまでもない。また，冒頭にあげたように，３度目も何かことがありそうである。それに対し，２度目は，惰性に陥るか，あるいは，心がけが悪ければ，２年目のジンクスと言うように，状況は悪くなるかも知れない。私は，しかし，現在，最初の時以上に張り切っているような気がする。最初の任期で，反省することは山ほどあり，またこれも山のような雑用を考えると，気が重い点もあるが，それでも，何かやれそうな気がしている。言うまでもなく，学会誌は，学会の先端のレベルを指し示すものである。この責任の重さも，気を重くさせる原因となるが，前期にも編集委員の皆様の御協力でなんとかやれたので，今期も，各委員のコンピテンスを最初からあてにして，次のようなことを目標にしたい。

（1）投稿論文の数を増やすこと，
（2）海外での知名度を高めること，
（3）行動計量学らしい論文の輪郭を明らかにすること，
（4）審査期間を短縮すること．

特に最後の目標（4）は，今期，主に委員長の怠慢のために果たせなかったことである。もちろん期待するのは編集委員の御協力だけでなく，是非，インタネット等を利用して，会員の皆様の御意見，お叱り，御示唆を是非頂きたいと思う。

日本学術会議関係報告

日本学術会議第4部会員 藤井 光昭

1．連合部会，第4部会（1996年12月9日，1997年2月14日）

1) 研連の見直しについての討議
2) 研連の見直しに関連して，研連の方に専門委員会を置き，研連と似た権限を持たせる（委員定数や予算は研連わくのものをもちいる）案についての討議
3) 「計算機科学研究の推進について」の勧告案および「学術団体の支援について」の要望案について討議
4) 平成9年度国際会議代表派遣実施計画，平成11年度共同主催国際会議についての検討
5) その他

2．統計学研究連絡委員会（1996年12月2日）

1) ISIに対する日本側窓口の総務丁統計局より，アカデミックな面での対応について協力してほしい旨の依頼があり，検討の結果，本研連が経済統計学研連および関連学会にも本研

連への協力をお願いして，統計局に協力する体制で施行してみることとした．

2) 統計関連学会の共同事業について

3) 第16期活動のまとめ(案)の検討

関連学会のお知らせ

＜学会大会，研究会類＞

★日本認知科学会第14回大会

会 期:1997年6月18日(水)～20日(金)
会 場:NTT基礎研究所(厚木)
照会先:NTT基礎研究所情報科学部認知科学97係
TEL 0462-40-3630, FAX 0462-40-4707
E-mail: jcss97-query@brl.ntt.jp
Web : http://www.brl.ntt.jp/jcss97/

★日本認知科学会 第25回 学習と対話研究会

テーマ:『Representational Change-表象の変換／変化を巡る諸問題 -』
会 期:1997年6月21日(土) 10:00-16:00 (予定)
会 場:青山学院大学(青山キャンパス) 総研ビル19会議室(11F)
参加費:1000円(研究会非会員)
照会先:電子技術総合研究所内
日本認知科学会 学習と対話研究会事務局
開 一夫 (khiraki@etl.go.jp)
TEL: 0298-58-5834, FAX:0298-52-0865
Web: http://www.sccs.chukyo-u.ac.jp/jcss/jcss.html

★1997年度人工知能学会全国大会(第11回)

会 場:早稲田大学・国際会議場(東京・新宿・西早稲田)
会 期:1997年6月25日(水)～6月27日(金)
(一般応募講演)
チュートリアル講演 :6月24日(火)
照会先:1997年度人工知能学会全国大会事務局
〒105 東京都港区浜松町2-12-14
第2日化ビル連企画気付
TEL 03(3433)2543, FAX 03(5403)7216
Web: http://ai-www.aist- nara.ac.jp/jsai/conf97/

★情報学基礎研究会

テーマ:「データマイニング，情報識別，分類」
会 期:1997年7月24日(木)
会 場:日本アイ・ビー・エム東京基礎研究所
(神奈川県大和市)
照会先:野美山 浩(日本IBM)
Tel. 0462-73-4563, Fax: 0462-73-7413
e-mail: nomiyama@trl.ibm.co.jp

★第65回日本統計学会大会

会 期:1997年7月23日(水)～25日(金)
[7月22日(火) チュートリアル]
会 場:大阪大学コンベンションセンター
照会先:日本統計学会事務局
TEL 03-3442-5801, FAX 03-3442-5924
Web: http://stat.sigmath.es.osaka-u.ac.jp/Stats
(大会関係，会場案内)
Web: http://sunyht2.ism.ac.jp/

★日本グループダイナミックス学会第45回大会・アジア会心理学会第2回大会合同大会

会 期:1997年8月4日(月)～6日(水)
会 場:国立京都国際会館
照会先:京都大学総合人間学部人間情報論分野
TEL:075-753-6564 (杉万研究室)
075-753-6557(北山研究室), FAX:075-753-6559

★第8回教育分野の人工知能国際会議 (AI-ED 97)

会 期:1997年8月19(火)～22日(金)
会 場:神戸国際会議場
照会先:国内組織委員長 溝口理一郎 (大阪大学産業科学研究所)
Fax: 06-879-2123
E-mail : miz@si.sanken.osaka-u.ac.jp
Web: http://www.ei.sanken.osaka-u.ac.jp/aied97/cfp-j.html

★第15回人工知能国際会議(IJCAI-97)

会 期:1997年8月23日(土)～29日(金)
会 場:名古屋国際会議場
照会先:プロコムインターナショナル
〒102 東京都千代田区紀尾井町3-6
秀和紀尾井町ビル 1階
TEL: 03-3234-2361, FAX: 03-3234-4456
E-mail: procom2@beehive.twics.com
Web: http://www.etl.go.jp/etl/suiron/ijcai-97-j/

★日本応用心理学会第64回大会

会 期:1997年8月30日(土), 31日(日)
会 場:駒澤大学
照会先:駒澤大学内日本応用心理学会第64回大会準備委員会
TEL:03-3418-9303, FAX 03-3418-9126

★日本社会心理学会第38回大会
会　期:1997年9月5日(金), 6日(土)
会　場:立教大学文学部
照会先:立教大学文学部心理学科　水口禮治
TEL:03-3985-2644, FAX 03-3985-2911

★日本心理学会第61回大会
会　期:1997年9月17日(水)～19日(金)
会　場:関西学院大学上ヶ原キャンパス
照会先:(財)日本学会事務センター内日本心理学会第61回大会準備委員会
TEL:03-5814-5800, FAX 03-5814-5823

★日本教育心理学会第39回総会
会　期:1997年9月24日(水)～26日(金)
会　場:広島大学教育学部及び学校教育学部
照会先:(財)日本学会事務センター内日本教育心理学会第39回総会準備委員会
TEL:03-5814-5800, FAX 03-5814-5823

★第28回日本色彩学会全国大会
会　期:1997年9月26日(金), 27日(土)
会　場:女子美術大学相模原校舎
照会先:日本色彩学会事務局
TEL:03-3432-0868, FAX 03-5403-7216

<チュートリアル類>

★日本認知科学会チュートリアル「脳の認知モデル」
日　時:1997年6月17日(火)
会　場:ジャストシステム基礎研究所セミナーホール
東京都港区北青山1-2-3青山ビルヂング7階
照会先:電子技術総合研究所;
認知科学会企画委員長 橋田 浩一
FAX: 0298-58-5930
E-mail: hasida@etl.go.jp
詳細は下記の認知科学会ホームページ参照
http://www.sccs.chukyo-u.ac.jp/jcss/jcss.html

★1997年度統計数理研究所公開講座
概　論:「情報量規準による統計解析入門」(25時間)
日　時:1997年7月7日(月)～7月11日(金)
10:00～16:00
会　場:統計数理研究所講堂(地下鉄日比谷線広尾下車約7分)
申込受付:5月26日(月)～6月13日(金)
照会先　:統計数理研究所公開講座担当
Tel: 03-5421-8720,　Fax:03-5421-8796
E-mail　nakajima@ism.ac.jp
Web: http://www.ism.ac.jp/

<統計学関連のメイリングリスト開設のお知らせ>

統計数理研究所有志の手によって, 統計学関連のメイリング・リスト stats が開設されました。これは,
1)セミナー, 研究会類の案内
2)統計に関連する国際集会, 学会, 科研費シンポジウムなどの申し込み募集や開催案内
3)共同研究の募集
4)外国から訪問者の紹介
などに関する情報を交換することが目的のメイリング・リストです. 登録方法を以下に説明しますので, 趣旨に御賛同の方の参加をお誘い致します。

stats への登録方法
1. majordomo@markov.ism.ac.jp 宛に (Subject: は空白にする)
subscribe stats 自分のメールアドレス
と1行だけ書いたメールを出すと,
majordomo@markov.ism.ac.jp
から受け付けの メールが返ってくる。
2. 次に majordomo@markov.ism.ac.jp 宛に
(Subject: は空白) help
と1行だけ書いたメールを出すとコマンド一覧が書かれたメールが返ってきくる. 脱退方法などもこのメイルの一覧を参照。
3. メイリングリストへの投稿。
stats@markov.ism.ac.jp 宛に(今度は Subject に書いてもよい)普通のメイルを出す要領で. 最初の投稿記事には, 簡単なあいさつとできれば自己紹介などを書く。
なお, このメイリングリストに関する情報は, 以下のホームページで見ることもできます。
http://www.ism.ac.jp/~uchida
(以上文責 統計数理研究所　前田忠彦)

博士／修士論文紹介

<博士論文概要>

東北大学　博士(文学)
佐藤嘉倫:　意図的社会変動の合理的選択理論
(主査:　海野道郎)
論文要旨:　本論文は, 社会計画や社会運動など, 変

革主体が意図的に社会を変動させようとする「意図的社会変動」の成否のメカニズムを合理的選択理論によって分析したものである。意図的社会変動では，変革主体による新しい制度の導入が社会的結果を生じるという社会的な因果関係が存在する。しかしその背後には，制度の導入が行為者の制約条件となり，その制約条件の下で行為者は行為選択を行い，その行為選択が集積して社会的結果を生じる，という多水準間移行が存在する。本論文ではゲーム理論を援用しつつ，この多水準間移行ゆえに，制度の導入が複数の社会的因果関係を生起することがあり，それゆえ意図的社会変動が失敗しうることを明らかにした。

東京大学 博士(学術)
萩生田伸子: 因子分析適用の前提条件に関する諸問題とその対策 (主査: 繁桝算男)
論文要旨: 因子分析を適用する上で，前提となる諸条件が必ずしも，満足されるとは限らず，その場合にも因子分析が適用されることは現実には多い.データの分布の条件，欠損値の問題，因子数の想定が異なる場合等について，推定値に対する影響を考察し，その幾つかの場合については適切な処理の方法を提案する.更に，推定法における初期値の設定や，モデル選択の方法について，ベイズ的な観点から新しい方法を提案した.

東京大学 博士(教育学)
土屋隆裕: 一般化等質性分析による質的データのための尺度構成法 (主査: 渡部 洋)
論文要旨: 一般化等質性分析を用いて，質的項目の選択あるいは分類を行ない，一次元尺度を構成する方法を論じた。

東京工業大学 博士(理学)
菊地賢一: Statistical Properties of Some Measures for Evaluating the Contribution of a Subtest(主査: 藤井光昭)
論文要旨: 複数のテストを用いてその合計点により選抜を行う場合に，各テストが選抜にどの程度寄与しているのかを表す指標に関して統計的に議論を行った。その中でも，特に入れ替わり率に関しては，標本分布を解析的に評価し，その標準偏差の近似と区間推定の方法等を提案した。

広島大学 博士(理学)
森 貴太:A generalized projection pursuit procedure and its significance level (主査: 藤越康祝)
論文要旨: 射影追跡法は，多次元空間上のデータを直線あるいは平面といった低次元部分空間に射影し，最も興味ある構造を探るための探索的データ解析手法である。本論文においては，"楕円分布が興味がない"という定式化のもとで，一般化モーメント指標を提案し，その指標に基づく射影追跡について，推測論の観点からの結果を与えている。とくに，一般化射影指標の有意水準が，標本数が十分大きい時に，正規確率場の裾確率で近似されることを示し，その近似公式を与えている。また，"興味がある"構造のもとでの射影指標の振る舞いを調べている。本論文は，Hiroshima Math. J. に掲載予定である。

藤澤洋徳: Efficient tests for mean structure in random effects models (主査: 藤越康祝)
論文要旨: 本論文では，多変量ランダム効果モデルにおける平均構造の線形仮説検定の最適性問題を扱っている。まず，一標本多変量一元配置ランダム効果モデルにおいて，データに対して適当な変換を考えることによって，線形仮説に対して主要な情報をもつデータと付加的な情報しかもたないデータとに分解し，主要情報データだけに基づくワルド型(または尤度比)検定法が，全データに基づく同様な検定法に比べより有効な検定であることを示している。さらに，この有効な検定の構成方法が，多標本多変量一元配置ランダム効果モデル，ランダム係数成長曲線モデル等における検定問題に対しても応用できることを指摘している。本論文は Hiroshima Math. J. に掲載予定である。

繆: Construction of block designs with resolvability or nested structurel (主査: 藤越康祝)
論文要旨: デザイン理論においては実験計画の存在性問題が最も重要な問題の一つである。本論文は，分解可能性または巣型構造を持つブロックデザインの体系的な構成方法の開発を目指し，著者の30編の発表論文の中から主要な14編を選び新しい結果も含めて纏めたものである。存在性問題の既知の解決方法は，特定な値や特別なパターンのパラメータを持つデザインを直接に構成する直接法と，小さなパラメータのデザインの合成で新しいデザインを構成する再帰法である。既知の多くの構成方法は特別な型のデザインにのみ適用可能である。本論文ではそこでの汎用性を高めるために既知の方法を含んだ一般的な構成法を開発することにより多くの構成法と種々な型のデザインに対する再帰構成法を統一的に扱うことを可能にし，この問題の総合的解決に向けて貢献している。

松井 敬: Selection Problems Based on Ranked

Data（主査: 藤越康祝）
論文要旨: 与えられた幾つかの母集団の中から，指定されたパラメータについて最良のパラメータをもつ母集団を選択するという選択問題には，2つの大きな接近法；(1) Indifference Zone Formulation，(2) Subset Selection Formulation がある。本論文では，(1)と(2)の方式をベクトル，合併の2つの順位にもとづく統計量，および，位置，尺度パラメータに関連した選択の問題とあわせ，統一的に論じている。ベクトル順位和統計量の同時分布等を導出して，各種選択方式に対して"所与の母集団確率を正しく選択する確率"を評価し，"その確率の下限を与えるようなパラメータのある形式"を確定している。本論文は Hiroshima Math. J. に掲載予定である。

広島大学 博士(学術)
覃涛: 非線形回帰問題とそのヒトの成長過程への応用（主査: 正法地孝雄）
論文要旨: 日本人の体格の成長過程を統計学的に特徴付けた。データを非線形成長模型にあてはめ成長母数空間への写像を行い，生物学的母数空間で成長の特徴付けを行った。成長母数や生物学的母数の間の関連性を調べた。「最終身長と成長のピーク時年齢とは独立である」と言われていたが，ピーク時の身長を条件とした偏相関を考えると負の強い相関があった。思春期発現時年齢や初潮時年齢に対しても同様な関連性がある。経験的ベイズ流手法は成長や肥満の予測に有用であることを示し，より精度の良い成長予測が行える可能性が得られた。応用例として若年時に肥満度の予測を行った。これにより成長異常や成人病予備軍の早期検出が統計的に可能となった。

A.S.;M. Shafiul Islam: Study on non-linear regression for analyzing human growth data（主査: 正法地孝雄）
論文要旨: ヒトの成長予測で，年齢 t で測定値がある場合に，年齢 u (t < u)での身長を予測する方法を提案した。この方法は，当てはめの良さを残差の平均平方和で測ると，経験的ベーズ流手法での成長予測よりもより良い。成人の体重と思春期の急速な成長時期との間には関連性がないと言われていたが，その時点での体重で条件を付けた偏相関を考えると成人の体重と成長時期との間に強い負の偏相関がある。

Count-Gompertz 成長模型に対し，平均値成長曲線は平均母数成長曲線と成長母数の標本積率との関数で漸近される。この漸近が収束する時には，経験的に非常に良い近似となっている。各個体の成長曲線も平均母数成長曲線の関数で表される。

千葉大学 博士(理学)
景 平: Bootstrap tests of multivariate distributions by projection pursuit technique（主査: 田栗正章）
論文要旨 : 本論文は，多変量分布に関する検定問題を論じたものであり，与えられた多次元データを射影追跡法を用いて縮約し，その後ブートストラップ法を適用して検定を行うという基本的アイデアを利用している。本論文で取り扱っている問題は，(1)複数個の母集団分布の独立性の検定，(2)一標本および二標本問題の場合の分散共分散行列に関する検定，(3)母集団分布が楕円分布族に属するか否かの検定，(4)複数個の母集団分布の同等性の検定である。

<修士論文題目>

岡山理科大学 修士(理学)
刺田敏博: 観察研究における情報バイアスについて（主査: 山本英二）
土居政之: On the Joint Distribution of Runs in a Sequence of Multiple States（主査: 山本英二）

千葉大学 修士(理学)
山口 功: A generator of a t-conorm and fuzzy t-conorm integrals（主査: 中神潤一）
海老原 宏之: 素数に関するプログラムの検証（主査: 櫻井貴文）

筑波大学 修士(理学)
石林 浩樹: Reference prior を用いた共分散行列の Bayes 推定（主査: 杉浦成昭）
佐藤 寧: 分散分析の修正因子とその効果（主査: 杉浦成昭）

筑波大学 修士(経営学)
津久井英喜: 環境適応型ロジスティック・モデルの構築（主査: 吉澤 正）
佐々木大介: 食品生産における生産マネジメントシステムの統合化に関する研究（主査: 吉澤 正）
佐藤耕一: ルームエアコン用圧縮機の品質及び技術マネジメント（主査: 吉澤 正）
茂木登美代: マルコフモデルによる医療経済分析－慢性動脈閉塞症治療を例として－（主査: 木島正明）
織壁ひろみ: オンラインショッピングの購買要因の研究（主査: 西尾チズル）

筑波大学 修士(経営システム科学)
林 章浩: オープン化時代のソフトウェア開発における品質保証モデルに関する研究 (主査: 吉澤 正)

東京大学 修士(教育学)
山内香奈: 多相Raschモデルによる論文評価データの解析 (指導教官: 南風原朝和)

東京工業大学 修士(工学)
大森拓哉: ベイズ的アプローチによる2値データの因子分析 (指導教官: 繁桝算男)

東京工業大学 修士(学術)
田村 玄: 規範的決定の枠組における 4 枚カード問題 (指導教官: 繁桝算男)

東京理科大学 修士(経営工学)
関根直樹: 薬効薬理試験データにおける用量時間反応関係の推測 (主査:吉村 功)
本多頼子: マウスリンフォーマ試験のデザインと解析方法の研究 (主査:吉村 功)
安藤友紀: 皮膚刺激性試験におけるブロック効果の縮小推定に関する研究 (主査:吉村 功)

東京理科大学 修士 (理学)
衣斐正樹: Generalized Proportional Reduction in Variation Measure for Contingency Tables (指導教官: 富澤貞男)

東北大学 修士(文学)
井桁章雄:地球環境問題に対する人々の意識と行動—家庭における太陽光発電を手かがりに— (主査: 海野道郎)
井出知之:社会階層と政党支持—なぜ, 革新政党支持率は低下したか— (主査: 原 純輔)
篠木幹子:環境問題に対する企業の行動—スーパーマーケットの取り組み— (主査: 海野道郎)

広島大学 修士(理学)
山根 良樹: 一般化推定方程式における作業相関行列に関する考察 (主査: 藤越康祝)
中山 晃志: 多重対応分析における固有値・固有ベクトルの漸近的性質 (主査: 藤越康祝)
舟川 修司: 対応分析におけるクラスタリング(主査: 藤越康祝)
寺西康浩: 順序制約の下での2項分布の母数の均一性の検定の検出力について—主として非心度を用いた考察— (主査: 笹渕祥一)

広島大学 修士(教育)
嶋田 勉: Methods of construction on error-correcting codes and affine resolvable designs (主査: 景山三平)
藤武大輔: Classifications of 2-associate association schemes (主査: 景山三平)

会員による著作書

市川伸一(著)
考えることの科学—推論の認知心理学への招待—. 中公新書, 1997.

C.Hayashi & E.K. Scheuch 編
Quantitative Social Research in Germany and Japan. Leske + Budrich, Opladen, 1996.

丹後俊郎, 山岡和枝,高木晴久著
ロジスティック回帰分析—SASを利用した統計解析の実際. 朝倉書店, 1996.

会員の方へのお願い

会報では会員の皆様の活動状況を広く紹介するために, 会員の方が指導なさった博士・修士論文, 会員の著作書の紹介をしております。該当される方は会報担当の方へ, ぜひ, ご一報下さい。

学会誌論文投稿先

和文誌「行動計量学」

〒305 茨城県つくば市天王台 1-1-1
筑波大学臨床医学系産婦人科
久保武士
TEL&FAX: 0298-53-3071
e-mail: sigemitu@md.tsukuba.ac.jp

欧文誌「Behaviormetrika」

〒153 東京都目黒区駒場 3-8-1
東京大学教養学部心理学教室
繁桝算男
TEL:03-5454-6267, FAX:03-3485-0481
e-mail: kshige@bayes.c.u-tokyo.ac.jp

入会手続き

学会では新入会員を広く募っています.
詳しくは,
〒113 東京都文京区本駒込 5-16-9
学会センター C-21
(財) 日本学会事務センター内
日本行動計量学会係
TEL: 03-5814-5810
FAX: 03-5814-5825
まで, お問い合わせ下さい.

行動計量学会会員数

(1997年5月8日現在)

正会員	909
準会員	43
名誉会員	5
賛助会員	23

編集後記

今回から会報担当が岩崎(成蹊大)から山岡(帝京大)に変わりました。本号では第25回大会関連のニュースや理事会, 各種委員の交代のニュースを中心に掲載しました。最近ではインターネットの利用で情報の収集がだいぶ楽にできるようになって参りました。会報でも少しインターネット関連の情報を掲載していきたいと考え, 次号から金沢大学の岩本健良先生にお願いして数回に渡りインターネット関連の記事を掲載していただくことになりました。また, 会報に会員の皆様からの声や情報など, たくさんお寄せ下さい。

原稿の送り先は次の通りです。

会報原稿送付先:

〒173 東京都板橋区加賀 2-11-1
帝京大学医学部衛生学公衆衛生学教室
山岡 和枝
TEL: 03-3964-1211(内 2178)
FAX: 03-3964-1058
e-mail: kazue@med.teikyo-u.ac.jp

(会報作成担当: 山岡和枝・前田忠彦・山下智志)